

おとさだ
乙 貞

第 200 号 通巻 35 巻 第 2 号
平成 27 (2015) 年 6 月 1 日 発行

守山市立埋蔵文化財センター
TEL/FAX 077-585-4397

〒524-0212
守山市服部町 2 2 5 0 番地

6 月、東南アジアは大変激しい降雨に見舞われる雨季を迎えています。中緯度に位置する東アジアの日本にも、比較的穏やかな梅雨として雨季が及び、草木の生長を促します。このことが、みずみずしい稲穂が実するという意味の「瑞穂の国」という日本の美称びしもうを生み出すわけですが、稲の生育とうらはらに、埋蔵文化財センターでは除草作業に追われる毎日です。

さて、市内遺跡の発掘調査も本格化しています。梅雨に入り、天気予報をにらみながら調査を進めた 3 件の調査成果と埋蔵文化財センターで実施する事業を紹介していきます。

発掘調査だより

1 吉身北遺跡の発掘調査

4 月 20 日から勝部一丁目字三反長で実施していた吉身北遺跡よしみきたいせきの発掘調査は、ほぼ全体が把握できたので、その成果を報告します。

今回の調査地は JR 守山駅西口にあたり、店舗建築工事に先立ち調査しました。面積は約 800 m²ですが、その一部は昭和 56 年に第 2 次調査として発掘調査されていて、今回は既調査地以外の範囲を実施したものです。第 2 次調査では、古墳時代後期のたてあなじゅうきょ竪穴住居や柱穴・土坑どこうのほか、縄文時代後期の土坑などが発見されていて、今回もそれに関係する遺構の広がりが予想されました。今回の調査地の中央には大きな攪乱坑かくらんこうがあったほか、東西に伸びる水路跡もあり、遺構面の広い範囲が破壊されていましたが、攪乱坑の周辺部では、竪穴住居をはじめ土坑・井戸・柱穴等が見つかりました。

調査区西隅では、竪穴住居の一部が検出されました。住居の南東隅にあたり、第 2 次調査で見つかった竪穴住居と同じように方形の土坑が設けられていました。出土土器から古墳時代後期（6 世紀中頃）と推測されます。

調査区の南側中央部では、直径約 3.5m、深さ 2.2m を測る井戸が見つかりました。掘り下げていくと、直径約 80 cm のくり貫き式の井戸枠が出土しました。出土土器から古墳時代後期の井戸と推測されます。

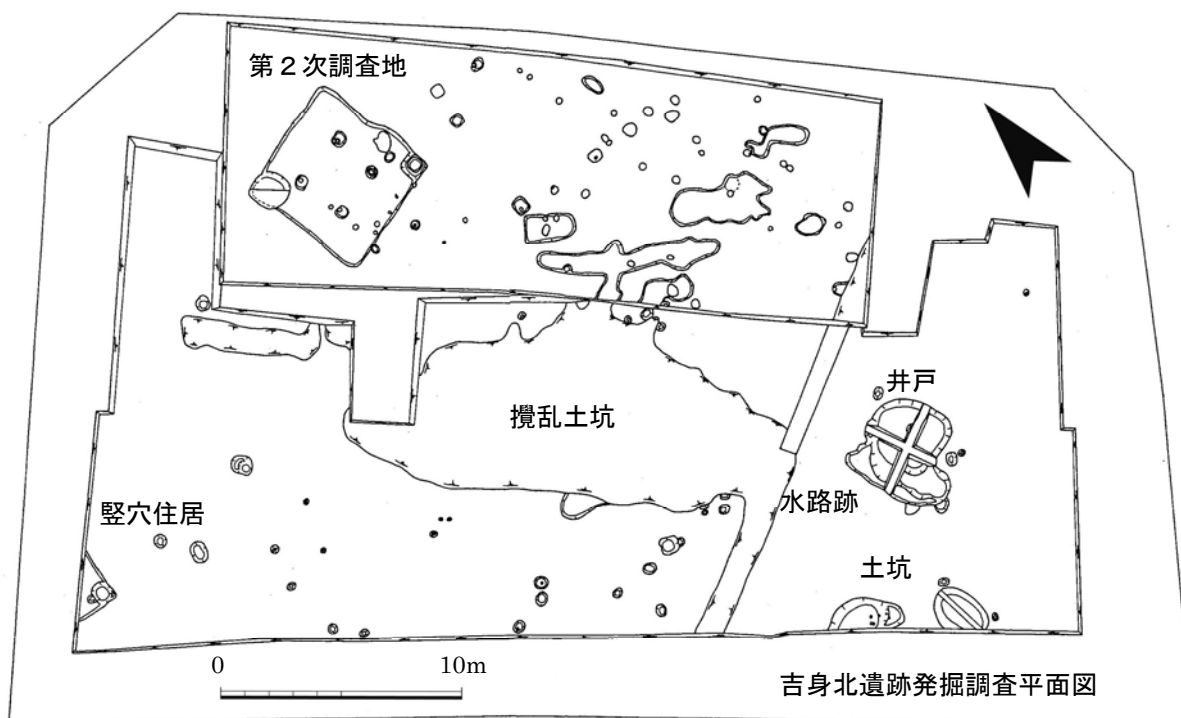
このほか、柱穴群や楕円形の土坑 2 基が検出されています。柱穴群は、出土土器から 5 世紀前半から 6 世紀後半にかけての時期とみられますが、掘立柱建物を想定するには至り



▲吉身北遺跡で見つかった古墳時代後期の井戸

ませんでした。土坑2基は調査区南西際で検出したもので、ここからも古墳時代後期の須恵器や土師器が出土しました。

吉身北遺跡は縄文時代から近世にかけての複合遺跡として知られています。これまでの調査では、広い範囲にわたって古墳時代後期の竪穴住居や古墳が多く見つかったことから、狭義においては、古墳時代後期の大集落跡といえます。今回の調査成果もそのことを裏付ける結果となりました。今回の調査は6月上旬に終了する予定です。(伴野)



2 益須寺関連遺跡の発掘調査

5月18日から益須寺^{やすでらかんれんいせき}関連遺跡の調査を実施しています。所在地は吉身五丁目字園田で、発掘調査地の全容が把握できましたので、その成果を報告します。

益須寺^{にほんしょき}関連遺跡は、『日本書紀』にも記載された白鳳寺院・益須寺^{はくほうじいん}にちなんだ益須寺遺跡の周辺地に広がる遺跡ですが、これまでの調査では、益須寺が建立されていた飛鳥・奈良時代以外の生活痕も見つかっています。

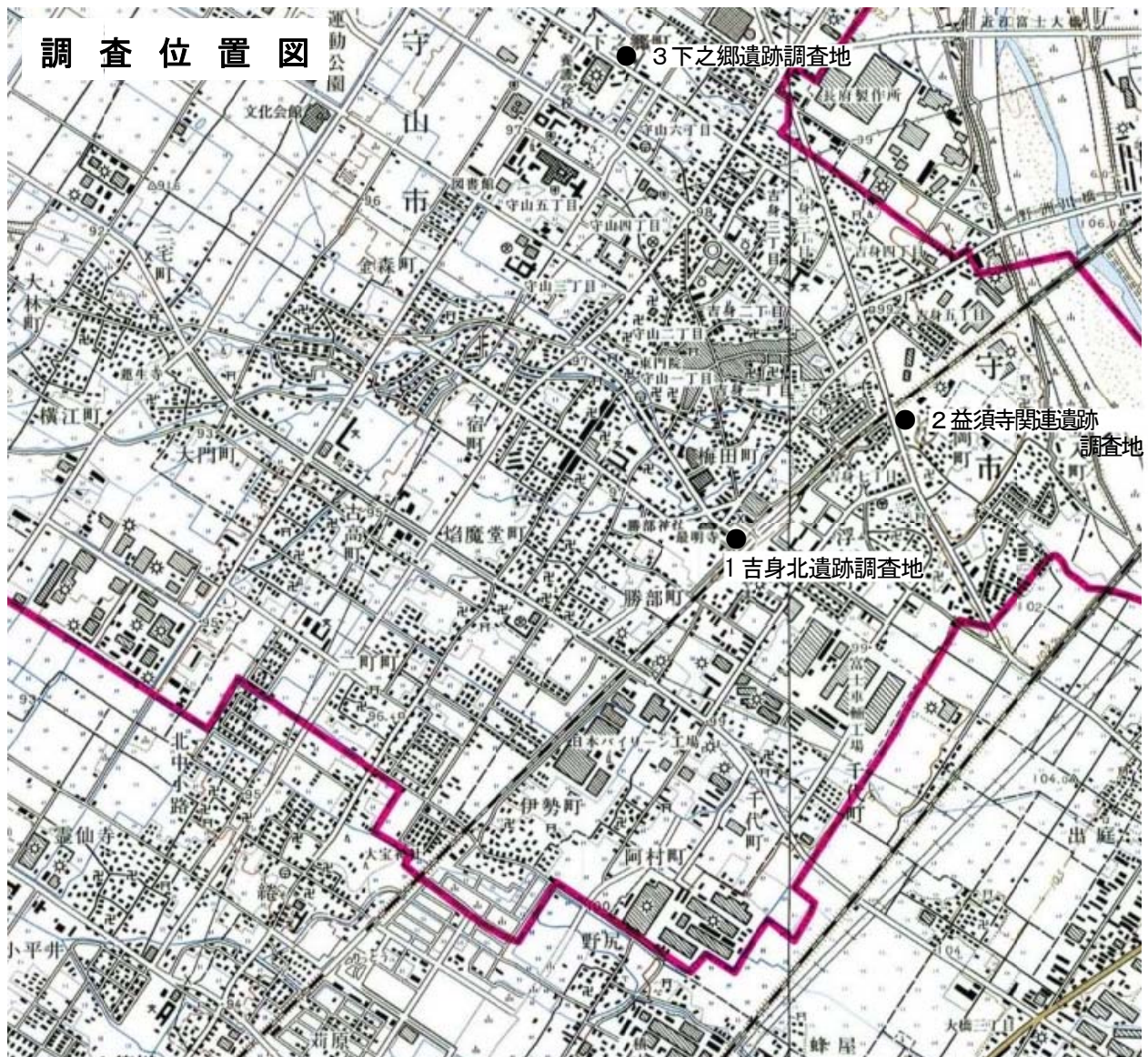
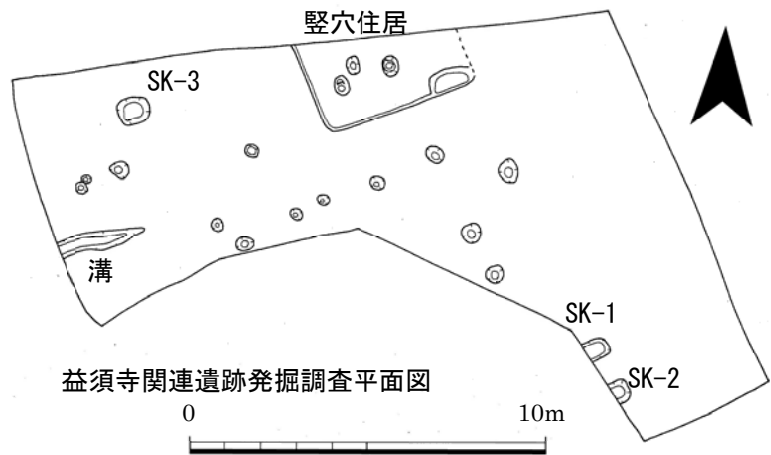
今回の調査地は、JR琵琶湖線を跨ぐレインボーロードと駅前グリーンロードが交差する吉身5丁目交差点の南東四半に位置しています。宅地造成工事に先立ち、約160㎡を対象に調査しました。現在の地表面から約30cmの深さ、掘り下げた結果、次頁の図のとおり、竪穴住居1棟と溝、土坑(SK-1～3)、柱穴が見つかりました。

竪穴住居は、ほぼ半分近くが調査地の北側に広がっています。1辺が約4.5mの規模になります。



▲益須寺関連遺跡の竪穴住居出土の有孔円板

床面までは5～9cmほどの深さが残っていて、前出の吉身北遺跡で見つかった竪穴住居とおなじく北東隅に土坑が付設されている他、滑石製の有孔円盤（前頁に掲載写真）も見つかっていることから、古墳時代後期の住居であると考えられます。（岩崎）



3 下之郷遺跡の確認調査

前号でも調査経過をお伝えしました下之郷史跡公園の東側の水田地で、昨年12月下旬から実施している下之郷遺跡の確認調査は、本年度4月以降も継続して実施しています。約2,000㎡のうち約500㎡を昨年度中に終了し、残り1,500㎡を調査する予定です。（小島）

トピックス

ゴールデンウィークに開催しました春季特別展「飛鳥・奈良・平安時代のもりやま」は盛況のうちに終了しました。また、開催期間中の4月29日（水・祝）には、守山市文化財保護審議委員の大橋信弥さんを講師に「近江国は宇宙に名の有る地なり～藤原武智麻呂が見た古代近江と守山～」というテーマで講演会を開催し、多くの参加がありました。

特別展開催風景（左写真）



埋蔵文化財センター友の会だより

埋蔵文化財センター友の会は、5月24日（日）に第1回見学会を開催しました。

今回の見学会は、「吉身北遺跡の発掘調査見学と信長と戦った一揆の城の故地を訪ねて」というテーマで、今号でもお伝えしている吉身北遺跡の発掘調査地、そして、織田信長の宗教勢力弾圧に対する一向一揆の拠点となった金森懸所と蓮生寺（三宅町）を見学しました。それぞれの見学先では、教育委員会の調査担当者や関係者の説明にメモをとったり、写真撮影するなど、郷土の歴史を学ぶ有意義な半日を過ごしました。



▲ 金森町善立寺・川那辺住職の説明風景

お知らせのコーナー

埋蔵文化財センターでは、古墳時代の鏡づくりを体験する夏休み考古学教室「鏡の铸造体験 -古墳時代の鏡をつくってみよう!-」を夏休み期間中2回開催します。

詳しくは、広報もりやま7月15日号やホームページに掲載しますので、是非、参加してください！

鏡づくりのモデルです!!



【後記】「乙貞」は、今号で200号の節目を迎えることができました。センター開館まもなく、発掘調査成果やセンターの様々な催し物を皆様にお伝えするために発行してきましたが、その間、幾人もの担当者に編集が受け継がれ、手書きからタイプライター、そしてワープロと、その手法も変化してきました。これまでの乙貞を読み返してみますと、決して洗練されたとは言いがたい紙面ですが、常に最新情報をわかりやすく発信していくという努力のあとがうかがえます。今後もこの姿勢だけは受け継いでいきたいとおもっています。

（所長記）